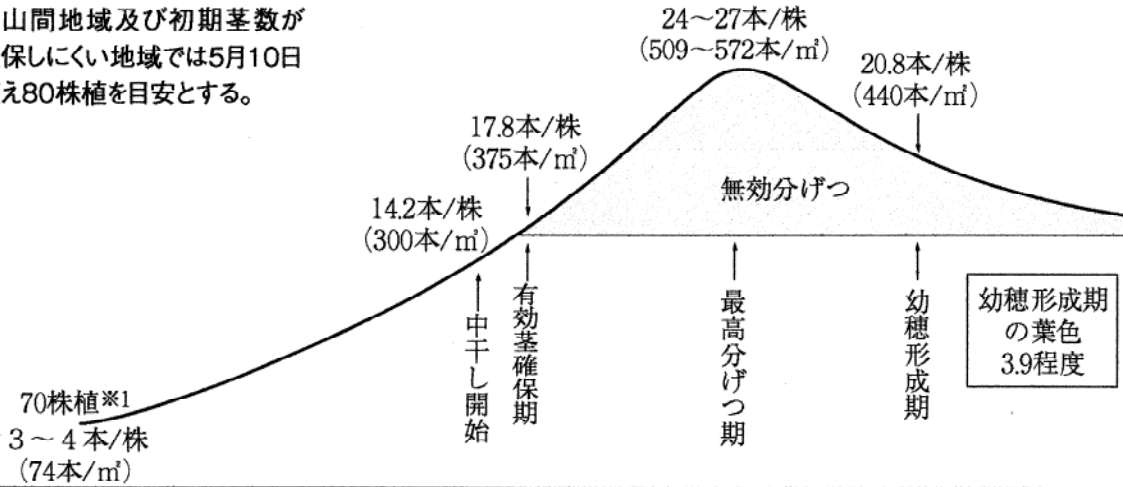


(5) コシヒカリ

※1 中山間地域及び初期茎数が確保しにくい地域では5月10日植え80株植を目安とする。



月日	5/28	6/10 6/15	6/28	7/12	
葉令	23 45	7.1 8.2	10.3	12.0	
月	5月		6月		7月
生育区分	活着期	分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	
管理作業	5/15頃※1 ・田植 ・早期追肥 ・除草剤散布	・溝切り ・中干し開始	・第1回穂肥	7/21頃 ・第1回穂肥	
栽培管理のポイント	田植は低温・強風・雨の日に行わない。 田植後は5月15日頃を中心として、 70~80株程度、3cm程度の浅植 3~4本植、3cm程度の浅植 ・活後は浅水管理で田水温の上昇を ・図り、初期分けの発生を促す。	そのままだ中干しを開始する。 田植25日後に溝切りを行い、 ・中干しの効果を高めるため、予め溝の 仕上げを行っておく。	中干し後は間断かん水 ・中干しの程度は土質に応じて決める。 仕上げを行っておく。	で注意。(幼穂長15ミリ) ぎると倒伏や品質低下の原因になるの 第1回穂肥は早過ぎたり、量が多過	

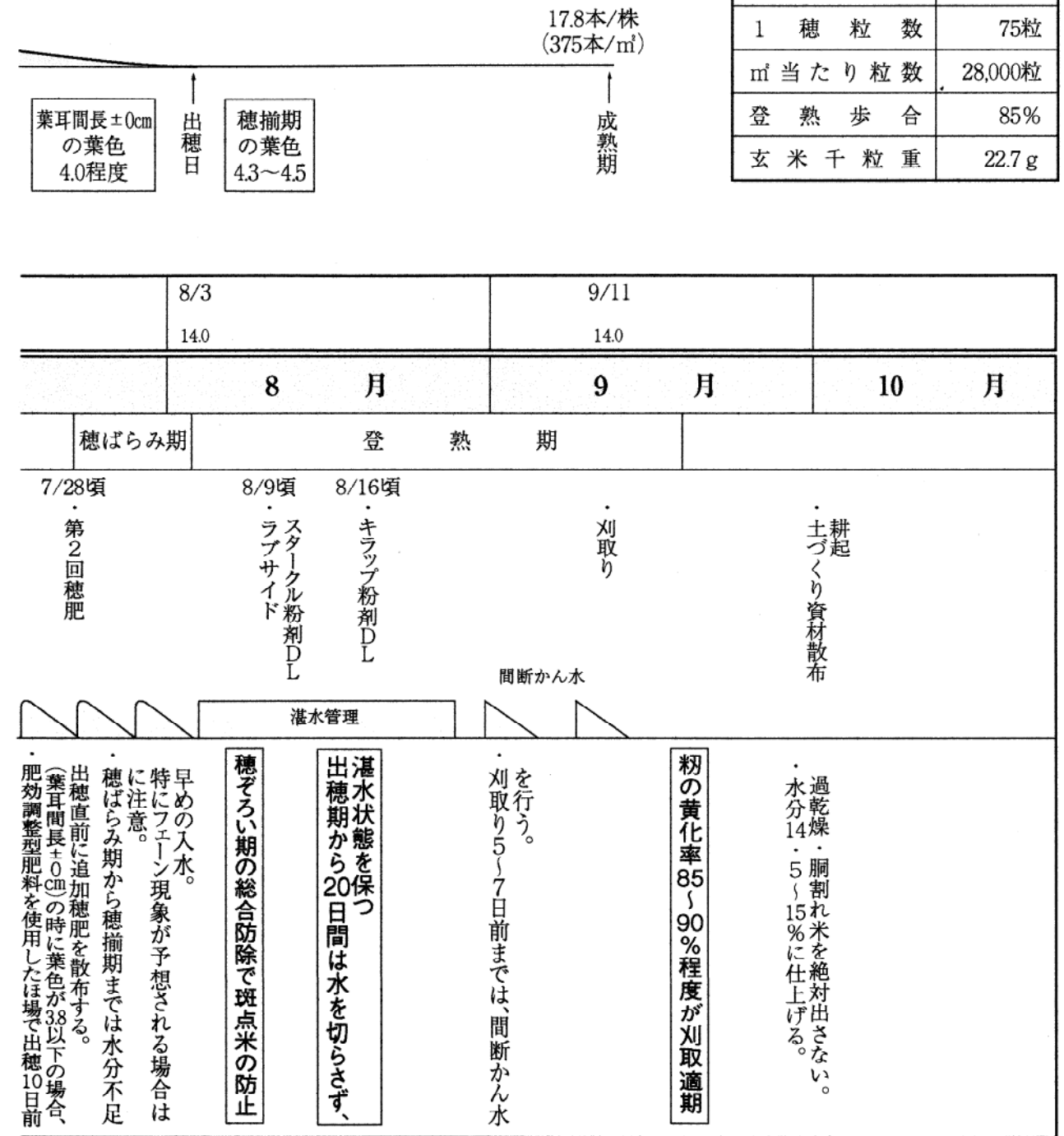
施肥設計

品 種	栽培方法	施肥方法	施肥体系	土づくり資材 (パワーシリカ)	基 肥		早期追肥 (追肥3号)	穂肥 (追肥3号)	
					肥料名	施肥量		1回目(幼穂15mm)	2回目(1週間後)
コシヒカリ	移植	側条	※2 肥効調整型	100	有機LPssコシヒカリ3号	35	-	-	-
				100	有機LPssコシヒカリ4号	30	-	-	-
		側条	分施	100	基肥206	25	-	10	12 (~15)
		全層	分施	100	基肥206	30	16	10	12 (~15)

【JA米生産基準】

収量構成の目安

構成要素	目標値
10 a 当たり収量	540kg
m ² 当たり穂数	375本
1 穂 粒 数	75粒
m ² 当たり粒数	28,000粒
登 熟 歩 合	85%
玄米千粒重	22.7 g



(単位: kg/10a)

穂肥(追肥3号)	成分計 (土づくり資材含む)		
	N (窒素)	P (りん酸)	K (カリ)
(追肥)	6.3 (7.4)	9.2 (9.4)	9.2 (10.3)
(7)	5.4 (6.5)	8.6 (8.8)	8.6 (9.7)
-	6.3 (~6.8)	10.7 (~10.8)	12.3 (~12.8)
-	9.2 (~9.7)	12.1 (~12.3)	15.4 (~15.9)

・肥効調整型は、転作跡・堆きゅう肥施用田および極端に遅い田植えでは使用しない。
・大豆跡では、3割減らす。
・堆きゅう肥を春施用した場合は、10kg減らす。
・昨年秋又は今年春にパワーシリカを散布しない場合は、6月25日頃にエスアイ加里特号を15kg/10a散布する。

※2 コシヒカリ (移植) の肥効調整型基肥は、土地帯で使い分ける

3号	黒ボク、砂質田 (川沿い)	30~35kg/10a
4号	壤質、粘質田 (一般田)	25~30kg/10a